

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
平成25年度事業普及委員会 第1回打ち合わせ議事概要

I. 日時 平成25年4月12日（金）18:00~20:00  
場所 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者 向殿担当理事、今泉委員長、木村委員（事務局 井端、平田）

III. 検討事項

今回は、委員の出席人数が過半数に満たなかったため、打ち合わせとして開催し、平成25年度の機関誌の特集企画と2件の投稿原稿の取り扱いについて検討した。

1. 平成25年度の機関誌の企画

平成25年度の機関誌の企画について意見交換を行ったところ、大学改革が求められている中で、本誌でも現状の紹介よりも、これからの大学教育の在り方を示唆するような枠組みを検討すべき時であると思われるが、「特集」の枠組みでは事例も紹介する必要があるため、将来的な新しい話題を提供することに限界があるのではないかと事務局からの提案があった。これを受けて、掲載内容の幅を拡大していくための方法を検討した結果、示唆的な内容については特集の枠ではなく新たな枠組み取り組むことにし、具体的には以下のような方針のもとで25年度からは掲載していくことを確認した。

(1) 新たな企画について

- ① 教育のイノベーション、グローバル化、ICT化を包括したテーマとし、教育への意識変革を促すような内容とする。
- ② テーマは「新しい学びの扉」とする。
- ③ 6月号と9月号は、事務局から提案した朝日新聞（3月6日付および3月8日付）の記事「オンライン授業の衝撃（上）（下）」に掲載されているMOOCなど新たな無料のオンライン授業の展開やそれを活用した反転授業(reverse education)を取り上げ、ICTを活用した新しい学びの提案を行う。
- ④ 6月号は、朝日新聞の記事を書いた社会部記者の金成隆一氏に依頼し、学びの革命の視点からICTを活用した新しい学びの提案をいただく。また、記事に掲載されているMOOCを展開している東京大学の吉見俊哉副学長にも大学としての戦略や取り組み内容を紹介いただく。
- ⑤ 9月号は、同じ朝日新聞の記事に掲載されている、サンノゼ大学のオスロー・ガディリ氏にオンライン授業を活用した新しい学びとして反転授業の事例を紹介いただく。

その他に、MOOCを中心とした海外でのICTを活用した新しい教育の紹介と提案を市川裕康氏（株式会社ソーシャルカンパニー代表取締役）に、MOOCを展開しているMITの戦略や取り組みをMITの宮川繁教授に依頼すること今後検討する。

(2) 9月号の特集

9月号には特集も掲載することにし、SNSの教育利用、ゲームデザイン手法や仕組みを用いて問題の解決を図る手法(Gamefication)の教育への導入、大学のIR、教育における地域連携がテーマとして挙げられ、事例が多く、地方大学や中小規模大学のPRにもつながる地域連携を取り上げることにし

た。また、継続して掲載していくことも視野に入れ、原稿を募集も行うことにした。

なお、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」で依頼先の大学を検討することも考えられるが、募集が平成 25 年度のため、採択大学への依頼は今後検討していくことにし、まずは、実践している大学を中心に依頼することにした。

## 2. 投稿原稿について

2 件の投稿原稿の内容を確認し、機関誌への掲載の採否を検討した結果、東京成徳大学の加地雄一他による「タブレット端末を利用した聴覚障害学生への情報保障」は、聴覚障害学生への取り組み事例は他大学に大変参考になり、委員校でも実践してみたいとの意見もあったため、6 月号に掲載することにした。

また、もう 1 件は最終課題の自己評価の基準をなぜ社会人基礎力にしたのか理由を明記すべきとの意見から、この点が追記された原稿を再投稿いただき、その上で改めて検討することにした。

以上